



立教百七十九年 学生担当者大会における表統領中田善亮先生ご講話 十一月二十五日・第一食堂

教祖百三十年祭当日の真柱様のお言葉の中に、「これからは、いわば普段の地道で継続的な動き方となるわけだが、きょうまでの動きが途切れてしまうことのないよう今後の諸活動に活かしていくことが肝心だ」と、お聞かせいただきました。年祭活動は三年千日と仕切りを

皆様には、日頃から学生担当委員会のご用の上に、いろいろとご尽力をいただきまして誠に御苦労様でございます。教祖百三十年祭を今年の一月につとめさせていただきまして、また年祭の年も、もう十一月の末ということで、押し迫ってきております。今日は学生担当者の大会ということではありますが、そういう時にありますて、現在お道全体が年祭活動の旬から次の動き、次のステージへと歩みを進める時でありますことから、まず始めに学担のみならず教内全体の今後的基本指針と申しますか角目につきまして、今あちらこちらで申しておりますことをお話しいたしまして、その次に学担を預かる皆さん方に心得ていただきたいことをお話しさせていただきたく思います。

教祖百三十年祭当日の真柱様のお言葉の中に、「これ

からは、いわば普段の地道で継続的な動き方となるわけだが、きょうまでの動きが途切れてしまうことのないよう今後の諸活動に活かしていくことが肝心だ」と、お聞かせいただきました。年祭活動は三年千日と仕切りを

学生担当者報

立教179年12月25日

お知らせ

一月例会 告

【教区】	日程・会場案内	報
・大阪 【直属】	1月31日14時 教務支庁	学生層育成者講習会
・此花	1月24日13時 詰所	日程・会場案内
・宮崎	11月14日 教務支庁	報

【教区学生層育成者講習会】	各地の動き	人事
十一月例会	去る11月25日本部第二食堂に於いて「十一月例会」を開催。出席は46教区、164直属。	【直属学生担当委員長辞令交付】
11月1日 教務支庁	33名	《立教179年11月25日付》
川口委員出向		・小嶋教弘（河原町・敬神）
11月18日 事務局連絡会	11月18日 事務局連絡会	・畔内宏和（池田・國次）

業務記録	まなびば研究室会議	出版部部会
《立教179年11月16日～12月15日》	まなびば研究室会議	12月5日 春の学生おぢばがえり
11月18日 事務局連絡会	13日 学修大学の部研究室会議	12月26日 育成に役立つ研修会（～29日）
	広報室会議	春の学生おぢばがえり

15日	研究室会議	まなびば研究室会議
15日	学修部部会	まなびば研究室会議
	学修高校の部研究室会議	まなびば研究室会議

・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	『Happist』納品
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	22日 『Happist』梱包
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist』納品
・徳島	11月30日 教務支庁	60名	24日 研修会チーム会議
・中根	11月14日 大教会	40名	委員会
・吉川	前委員長出向		学生担当者大会
・豊田	委員出向		例会
・葛西	委員出向		立教179年12月25日
・岡山	11月2日 教務支庁	87名	学生連絡会
・鳥取	11月30日 教務支庁	44名	『Happist

持つてつとめてまいりました。仕切りには始まりと終わりが当然あるわけですけれども、その仕切りの終わりが年祭の日であります。それを越えた時から、その年祭活動の次に、もう既に進んでいるわけであります。しかしながら理屈はそうでも、我々は中々昨日と今日でころつと切り替えるというわけにはなりません。ですので、今年はそういうことを切り替えていく時として、つとめてきたつもりであります。その上では、「しつかりとおぢばに心を繋いで、また年祭活動で培ってきた成果をしつかりと板に付けていくように、おぢばがえりということを強調して」と申してまいりました。そして今、読ませていただいたお言葉にもありますように、これまでの年祭活動がこれから普段の活動に途切れてしまうことがないよう、しつかりとこの三年千日の動きをこれから諸活動に活かしていくようにと、こういうことであります。

振り返ればこの度の年祭活動は、とにかくおたすけの実践ということを申してまいりました。ようぼくとしてお教えいただくおたすけをしつかり実践できるようにと。つまり、今まで本当に日々心掛けておたすけをしておられる人も、ようぼくとはいえ、そういったことは普段考えることもなく通つておるようぼくも、すべてがとにかくおたすけを実践していくこうと申して

まいりました。ただし、この仕切りは三年千日という比較的長い年限でありますから、その実践というところに重きを置いたわけです。今までおたすけということを考えなかつた方は、しつかり考えられるように、そして次にはちょっとでも人様をたすけさせていただく心を持てるように。現実に周囲を見渡せるにお願いをできるように。こういったところに重きを置いてまいりました。そして、そのことを今のお言葉から申せば、今後に活かしていくと、繋げていくということであります。それに活かしていくと、繋げていくことになります。それにはまず、直接的にはとにかくおたすけをしようという段階から、おたすけをする以上、やっぱりたすかつてもらわなければなりません。おたすけにかかる以上、親神様の教えを教祖の親心を分かつてもらえる人になつてもらいたい。心に助かっていただけるような人に成人してもらいたいという、やっぱり「たすべきの実」というところに進んでいかなくてはならないということが、直接的にはやはり頭に思い浮かぶのであります。

おたすけの実践の継続ということはもちろん、「たすけの実」を深く求めていくところに入つていかなければなりません。そのためには、我々には当然、直接たすけるという力は持ち合わせませんので、親神様にご守護をいただく道を歩ん

でいくしか方法はないわけであります。それは教祖のひながたを素直に辿るということ。これに尽くると思います。それが基本であります。ところが、たすかってもらうためには、たすけるために「ああしよう。こうしよう」。いろんな手段も、手立ても講じるわけです。そういうことを考えだと、ついつい手段に走ってしまいがちなのが我々であります。そして気づけば、その一番大切なひながたを素直に辿るというところ。教えの基本からしっかりと心において歩むというところ。そういうことを少し忘れてしまいがちになってしまいます。常に私たちが気を付けなければならない点だと思います。そこで、この基本ということが実は分かっているようで分かっていないのではないかと。できているようで、できていないのではないかといふところから、今一度思案し直す。振り返つてみることが大事なのではないかと、こう考えるわけであります。

そこで、ご恩報じという言葉があります。行いがあります。私はご恩報じの実践ということをキーワードとして、これからいろいろなことを思案してみてはどうだろうかと、また、実践していってみてはどうだろうかと、現在あちらこちらで申しているわけであります。

今申しましたように、「じやあたすけの実を求めるよ」と言

つたところで、それから突然一生懸命伏せ込んで、やっぱり限界があるわけです。それまでに、伏せ込んでいることが実は重要なのではないだろうか。普段からご恩報じの積み重ねをしているという私たちの通り方自体が、いざという時にご守護をいただき、また、たすけていただける力になるに違いない。そういう思つて今、改めて基本から、このご恩報じというところから。そして、日々のご恩報じ。日々の理といふところ。そしてもう一つは継続。続けるということ。基本から始まつてどんどん応用に進むのは常ですけれども、応用になつても基本を忘れてはいけないわけです。応用まで進んでもやはり基本はしっかりと押さえられていなければならぬ。この点を申しているわけであります。

改めて自らにご恩報じということができているのか、わかっているのかということを問いかけてみると、このご恩報じが本当に普段から私はできているのだろうか。また、それ以前に親神様のご恩という意味が本当に分かっているのだろうか。そもそも日々頂戴しているご恩を、私たちはご恩として感じる事ができているのだろうか。自分に対する疑問も不安もいろいろ湧いてまいります。何か考え方も実感も行いも届いていないうとだらけのよう、私は自らを思うのです。これについては皆

さんも一度お考へいたきたいと思います。私たちは、ひながた通りに、そして順序よく丁寧に、そして継続して通れば何事も必ずご守護をいただける。また、お導きいただける。そうに違いない。これが私たちの信仰であります。これを否定する人は、私たちの信仰にはないのであって、これが私たちのすべてであります。ですから、もし思い通りにご守護いただけない、お導きいただけないと思うのならば、それはこちらが届いていないという考え方。これに尽きるわけであります。

先だっての秋の大祭に真柱様は、基本教理である「かしもの・かりもの」と、「八つのほこり」ということについて改めてお話しくださり、また、自由自在のご守護によつて、生かさせていただいている喜びと感謝の発露である「ひのきしん」ということについてもお話を聞かせてくださいました。すべて私たちの信仰の基本中の基本であります。この時に、こういったお言葉を聞かせていただき、私たちは改めて今申しましたよう自らを振り返つて、そして、振り返れば必ず反省があると思ひますので、そこから改めて始めていく。この旬に自分の信仰をリセットするという言い過ぎなのかもしれません、再出発ですね。再出発の気持ちで今までの考え方を少し横に置いて、自分を眺めてみると、このことも大事なことだと思います。

次に人材育成ということにつきましてですが、これから具体的な活動として人材育成は大切な活動の柱であります。これはもう、少し前から人材育成ということは大きく取り上げておられますので、皆さん方も意識としてはお持ちいただいていることだと思いますが、人材育成と言いましても、もちろん若い人だけのことではありません。年配の方でも育成、丹精はしていかなければなりません。たとえ七十歳、八十歳の方でも、昨日お道の教えを聞いた人もいるのです。成人と言いますか、信仰の上ではまだ若い。また、年限は長くても先程も申しましたように、おたすけの「お」も考へたことがないという人もおります。しっかりとすべての人の丹精をしていくことが人材育成だということではありますけれども、中でもやはり若い人の育成ということは、常に欠かすことができないことであるということ。これはやっぱり大事な点だと思っております。たとえ教会長の子どもであつても、小さなうちは未信者であります。小さ

ブでこういったことをもう一度話し合つていただき、そして、学生さんを育てるにはどういう風にしていけばいいのか。自分たちはどういう態度でいるべきなのかということをご思案いただきたいということを、まずもつてお願いを申し上げたいと思います。

なうちはと言つても赤ん坊の頃だけではありません。少年になつても青年になつても、あるいは場合によつては大人になつておられますので、皆さん方も意識としてはお持ちいただいていることだと思いますが、人材育成と言いましても、もちろん若い人だけのことではありません。年配の方でも育成、丹精はしていかなければなりません。たとえ七十歳、八十歳の方でも、昨日お道の教えを聞いた人もいるのです。成人と言いますか、信仰の上ではまだ若い。また、年限は長くても先程も申しましたように、おたすけの「お」も考へたことがないという人もおります。しっかりとすべての人の丹精をしていくことが人材育成だということではありますけれども、中でもやはり若い人の育成ということは、常に欠かすことができないことであるということ。これはやっぱり大事な点だと思っております。たとえ教会長の子どもであつても、小さなうちは未信者であります。小さ

さんも一度お考へいたきたいと思います。私たちは、ひながた通りに、そして順序よく丁寧に、そして継続して通れば何事も必ずご守護をいただける。また、お導きいただける。そうに違いない。これが私たちの信仰であります。これを否定する人は、私たちの信仰にはないのであって、これが私たちのすべてであります。ですから、もし思い通りにご守護いただけない、お導きいただけないと思うのならば、それはこちらが届いていないという考え方。これに尽きるわけであります。

先だっての秋の大祭に真柱様は、基本教理である「かしもの・かりもの」と、「八つのほこり」ということについて改めてお話しくださり、また、自由自在のご守護によつて、生かさせていただいている喜びと感謝の発露である「ひのきしん」ということについてもお話を聞かせてくださいました。すべて私たちの信仰の基本中の基本であります。この時に、こういったお言葉を聞かせていただき、私たちは改めて今申しましたよう自らを振り返つて、そして、振り返れば必ず反省があると思ひますので、そこから改めて始めていく。この旬に自分の信仰をリセットするという言い過ぎなのかもしれません、再出発ですね。再出発の気持ちで今までの考え方を少し横に置いて、自分を眺めてみると、このことも大事なことだと思います。

年祭という節目を越えて、お道全体はそういう風に再出発という気持ちで歩みを踏み出したいと思います。今のお道には、私はそれが必要なことだと強く思つております。「おたすけの実」を求めていくためには、難しいことよりも信仰的な基本をまずしつかり押さえていくことが、肝心であります。どうか、こういった考え方をこれから皆さん役割である学生さんの育成、丹精という上に活かしていただきたいと思います。

しかしながら今申しましたようなことは、重ねて言いますけれども、お道の中では基本中の基本、つまり当たり前のことがあります。子どもの頃から私たちは聞いている話ばかりなのです。それを改めてと言われても、「何を改めて」と「分かつている」と耳にたこができるくらい聞かされているというのが、特に立場をいただく私たちの感覚であります。そういった当たり前のことと説くことが大事だと言われても、なかなか難しいことだと逆に思うのです。ですから、そこにはこういった分かれ前のことと説く力と言いますか、分かりきつたことを伝えりきつたことを説く力と言いますか、分かりきつたことを伝えるのに、こちらを向かせる力というか、そういった努力がとても必要なことだと思うのです。そういった点をよくよく胸に置いていただきて、それぞれに自分を振り返り、そして委員会であつたり、教会であつたり、あるいは地域であつたり、グルー

会長子弟育成プロジェクト」というものを、各直属教会に立ち具体的に若い人の育成ということに関しましては、少年会の活動であるとか、あるいは皆さんがよくご承知の学生担当委員会、学生会の活動であるとか、そういったことももちろん継続して進めていく大事なことであります。それとは別に現在「教

親から信仰をしつかり育てていくことを強めていきたいということです。「信者子弟もいるじゃないか」と、「同じようぼくじやないか」ということですけれども、それは私はちょっと違うと思う。やはり教会に生まれてくるという人は、そういういんねんを持つて生まれてきた人であります。ですから、そこからしっかりと道に繋いでいくということは順序であります。だから、こういったように教長の子弟、孫、これを取り上げるということをいたしました。そういう対象のすべての人たちです。その場合の教会とは、教会の役に立つということは、必ずしも教長とか道専務とかだけではありません。ようぼくであつたり、あるいは嫁いだりすると違う系統に行くわけです。必ずしも生まれた教会というわけではありません。いろんな意味でとにかく教会の役に立つ人ということです。そういう人に育つてもらいたいということを強く思います上から、ここに焦点を当てさせていただきました。

そして、次にこれも発表しておりますが、「後継者講習会」を開催する予定をいたしております。これはそういった立場にたいと思つておられます。

こういったことも含め、学生担当委員会の皆さんには、学生担当委員会だけのことではなく、少年会のやつていることでも、あるいは婦人会がやつていることも、また、あるいは教会の役員さんたちの言つておられることであるとか、部内の教長さんたちが言つておられることであるとか、いろいろなことに耳を傾けて、そして、その中に、その全体的な声の中で、考えの中で学生担当委員会の役割はどこにあるのかというふうなことをご思案いただきたい。本部の学生担当委員会から流れてくることだけではなくて、いろいろなところから流れてくることをしつかりと一緒に考え合せていただくということが大事なことだと思っております。

年祭が終わりましたので、直属教会においても、あるいは教区もこの春でちょうど教区長の任期が代わりましたので、学生担当委員会の顔ぶれも大きく変わられたというようなところも少なくないと思います。本部の学生担当委員会も任期によって替わりました。そこで、私は本部の学担にいろいろなことを見直してほしいとお願いしております。これは活動、行事、思案の仕方いろいろです。「この部分はもう常識や。変えられん。ここはアンタツチャブルだ」というようなことは無し。とにかく

上げていたいしているところであります。教長子弟、子女、孫、兄弟、いろいろあるわけですけれども。まず、教長の肉親から信仰をしつかり育てていくことを強めていきたいということです。「信者子弟もいるじゃないか」と、「同じようぼくじやないか」ということですけれども、それは私はちょっと違うと思う。やはり教会に生まれてくるという人は、そういういんねんを持つて生まれてきた人であります。ですから、そこからしっかりと道に繋いでいくということは順序であります。だから、こういったように教長の子弟、孫、これを取り上げるということをいたしました。そういう対象のすべての人たちを教会の役に立つようぼくに育つてもらいたい。こう思うからです。その場合の教会とは、教会の役に立つということは、必ずしも教長とか道専務とかだけではありません。ようぼくであつたり、あるいは嫁いだりすると違う系統に行くわけです。必ずしも生まれた教会というわけではありません。いろんな意味でとにかく教会の役に立つ人ということです。そういう人に育つてもらいたいということを強く思います上から、ここに焦点を当てさせていただきました。

そして、次にこれも発表しておりますが、「後継者講習会」を開催する予定をいたしております。これはそういった立場にたいと思つておられます。

もう一つ、おぢばの学校へ通おうと、おぢばの学校で学ぼうと声かけをいたしております。これも現実には、地方からおぢばで学ぶ人が昔より減ってきております。絶対数の問題ではなく、地元より遠い人が減っているのです。私はこれは由々らしさかりと道に繋いでいくということは順序であります。だから、こういったように教長の子弟、孫、これを取り上げるということをいたしました。そういう対象のすべての人たちを教会の役に立つようぼくに育つてもらいたい。こう思うからです。その場合の教会とは、教会の役に立つということは、必ずしも教長とか道専務とかだけではありません。ようぼくであつたり、あるいは嫁いだりすると違う系統に行くわけです。必ずしも生まれた教会というわけではありません。いろんな意味でとにかく教会の役に立つ人ということです。そういう人に育つてもらいたいということを強く思います上から、ここに焦点を当てさせていただきました。

関係なく年齢的な括りだけです。すべての対象の方々に声かけをしていただきたいとこれからも声かけを強めたいと思います。

もう一つ、おぢばの学校へ通おうと、おぢばの学校で学ぼうと声かけをいたしております。これも現実には、地方からおぢばで学ぶ人が昔より減ってきております。絶対数の問題ではなく、地元より遠い人が減っているのです。私はこれは由々三ヶ月の修養科だけではなくて一年、二年、三年とおぢばで過ごすということだなと思っておるので、やつぱり、おぢばで過ごすことだなと思っておるので、やつぱり、おぢばが「帰る場所なんだ」、「自分たちのふるさとなんだ」という思いが身につくのです。ところが、そういうことがなければ身につきにくい。これは現実であります。もちろん学校だけではなくて、勤務でもいいのです。しかしながら、まず学校をお考えいただきたい。若い頃からそういう場においていただきたい。そういう丹精、そういう理屈ではなかなか理解できない丹精が、自教会や我が家でできるかというと中々難しいことだと思います。中々大変なところはあるとは思いますが、これはそれ以上の値打ちが必ずあると思っておりますので、これも大きいに声かけをしていただきたい、皆さん方にお願いをいたしました。

もう一つ、おぢばの学校へ通おうと、おぢばの学校で学ぼうと声かけをいたしております。これも現実には、地方からおぢばで学ぶ人が昔より減ってきております。絶対数の問題ではなく、地元より遠い人が減っているのです。私はこれは由々三ヶ月の修養科だけではなくて一年、二年、三年とおぢばで過ごすということだなと思っておるので、やつぱり、おぢばで過ごすことだなと思っておるので、やつぱり、おぢばが「帰る場所なんだ」、「自分たちのふるさとなんだ」という思いが身につくのです。ところが、そういうことがなければ身につきにくい。これは現実であります。もちろん学校だけではなくて、勤務でもいいのです。しかしながら、まず学校をお考えいただきたい。若い頃からそういう場においていただきたい。そういう丹精、そういう理屈ではなかなか理解できない丹精が、自教会や我が家でできるかというと中々難しいことだと思います。中々大変なところはあるとは思いますが、これはそれ以上の値打ちが必ずあると思っておりますので、これも大きいに声かけをしていただきたい、皆さん方にお願いをいたしました。

もう一つ、おぢばの学校へ通おうと、おぢばの学校で学ぼうと声かけをいたしております。これも現実には、地方からおぢばで学ぶ人が昔より減ってきております。絶対数の問題ではなく、地元より遠い人が減っているのです。私はこれは由々三ヶ月の修養科だけではなくて一年、二年、三年とおぢばで過ごすということだなと思っておるので、やつぱり、おぢばで過ごすことだなと思っておるので、やつぱり、おぢばが「帰る場所なんだ」、「自分たちのふるさとなんだ」という思いが身につくのです。ところが、そういうことがなければ身につきにくい。これは現実であります。もちろん学校だけではなくて、勤務でもいいのです。しかしながら、まず学校をお考えいただきたい。若い頃からそういう場においていただきたい。そういう丹精、そういう理屈ではなかなか理解できない丹精が、自教会や我が家でできるかというと中々難しいことだと思います。中々大変なところはあるとは思いますが、これはそれ以上の値打ちが必ずあると思っておりますので、これも大きいに声かけをしていただきたい、皆さん方にお願いをいたしました。

もう一つ、おぢばの学校へ通おうと、おぢばの学校で学ぼうと声かけをいたしております。これも現実には、地方からおぢばで学ぶ人が昔より減ってきております。絶対数の問題ではなく、地元より遠い人が減っているのです。私はこれは由々三ヶ月の修養科だけではなくて一年、二年、三年とおぢばで過ごすということだなと思っておるので、やつぱり、おぢばで過ごすことだなと思っておので、やつぱり、おぢばが「帰る場所なんだ」、「自分たちのふるさとなんだ」という思いが身につくのです。ところが、そういうことがなければ身につきにくい。これは現実であります。もちろん学校だけではなくて、勤務でもいいのです。しかしながら、まず学校をお考えいただきたい。若い頃からそういう場においていただきたい。そういう丹精、そういう理屈ではなかなか理解できない丹精が、自教会や我が家でできるかというと中々難しいことだと思います。中々大変なところはあるとは思いますが、これはそれ以上の値打ちが必ずあると思っておりますので、これも大きいに声かけをしていただきたい、皆さん方にお願いをいたしました。

もう一つ、おぢばの学校へ通おうと、おぢばの学校で学ぼうと声かけをいたしております。これも現実には、地方からおぢばで学ぶ人が昔より減ってきております。絶対数の問題ではなく、地元より遠い人が減っているのです。私はこれは由々三ヶ月の修養科だけではなくて一年、二年、三年とおぢばで過ごすということだなと思っておるので、やつぱり、おぢばで過ごすことだなと思っておので、やつぱり、おぢばが「帰る場所なんだ」、「自分たちのふるさとなんだ」という思いが身につくのです。ところが、そういうことがなければ身につきにくい。これは現実であります。もちろん学校だけではなくて、勤務でもいいのです。しかしながら、まず学校をお考えいただきたい。若い頃からそういう場においていただきたい。そういう丹精、そういう理屈ではなかなか理解できない丹精が、自教会や我が家でできるかというと中々難しいことだと思います。中々大変なところはあるとは思いますが、これはそれ以上の値打ちが必ずあると思っておりますので、これも大きいに声かけをしていただきたい、皆さん方にお願いをいたしました。

本日はお忙しい中、学生担当者大会に大勢の方にお運びいただきまして、誠にありがとうございます。また、皆様方には常日頃より学生層の育成の上に、教区、直属それぞれの場で、ご丹精をいただいていますことを、心よりお礼申し上げます。

只今は表統領先生より、道を歩む者としての今後の通り方、そして、学生層育成にあたる我々に対して、育成者としての心の置き処についてお仕込みをいただきました。頂戴しましたお言葉を心に治めて、そして

立教百七十九年 学生担当者大会における松村委員長挨拶 十一月二十五日・第一食堂



先月の秋季大祭でいただきました真柱様のお言葉を頼りに、今後の活動方針を定めてまいりたいと思います。

して只今は、見つめ直すということ、あらゆることに耳を傾けるということをお聞かせいただきました。

本日はお忙しい中、学生担当者大会に大勢の方にお運びいただきまして、誠にありがとうございました。また、皆様方には常日頃より学生層の育成の上に、教区、直属それぞれの場で、ご丹精をいただいていますことを、心よりお礼申し上げます。

今期の最初の例会において、表統領先生より「学担の目指すところを見失わずに、先にあるゴールに向けて、今、やらなければならぬことを考えていくように」という趣旨のお言葉を掛けていただきました。そ

様子を非常に詳しく熱くお話しします。ある先生には、「教会本部には『金は出せ、口は出すな』と言つて回つてたんや。今思うと無茶なこと言つてたよなあ」なんて話も聞かせてもらいました。しかし、勢いは

度が必ず学生さんたちに伝わっていくことだと思いますので、この点を是非お願いをいたしたいと思うのです。

の間に独立性というものはなげれはならないのですけれどもしかし、一方では、お互に「何をやつているのだろうか」ということにも興味を持つてほしい。例えば教会と地域でもそうです。「地域は今、何をやつているのだろうか」ということも縦にも横にも両方に所属するわけですから、やつぱり承知していなければなりません。あるいは年齢の壁、年齢の差というものもあります。いろいろな考え方とともに、しっかりと埋めていくけるようにアンテナを張り巡らしていくだいて、私はいつも「オール天理」ということを申しておりますけれども、そういう意味なのです。とにかく今は力を合わせてやつていかなないと、こうして歴史も重なつてくると組織にはいろいろな部門が出てくる。これは何も悪いことではないのです。しかし、よかれと思つて始めた部門には、それそれよかれと思つて始めた活動や行事が増えていくのです。全部するのはしんどいです。一つ一つを見れば、よく考えられているのだけれども、時々考え合わせてみたうじどうなんだと。そう思ひますので、「オール

「天理」というのはそういう意味で申しております。ですから、みんなが本当に一手一つになつて、事を進めさせていただきたいと、このように思います。

学生担当者報

学生担当者報

凄かっただけれども、判断、思慮という点ではまだまだ浅い学生の会です。どうかすると良からぬ方向へ一人歩きしてしまう懸念もあつたことから、会活動を支援し、盛り立てるとともに、教祖のようぼくとして立派に成人するよう導き育てることを目的として、学生担当委員会が生まれたわけです。

つまり、私たちの役割は学生の活動をサポートするということと、教祖のようぼくとして育てることにあるということになります。真柱様はこの二つの役割について、言葉を変えてお話し下さいました。「二年前の学生担当者大会でのお話でございますが、このようなことをお話し下さいました。」一口に世話をりと言つても、それは大別して二面あるように思います。一つは、行事を計画し参加を促し、それが盛会裏に終わるよう心を配る、いわゆる表に見える面の世話を取りであり、もう一つは、学生たち一人ひとりの心が成人するように方向を示し、そこに辿り着くことができるよう導く、い

だから一日は行くけど三日はないから」と初めの二日だけ登校して、残りは一日中寮内で心の向くままに過ごし始めました。一人にさせられませんので、私たちは交代で彼に付き添い、一緒に過ごすわけです。「学校へ行こう」。誰がどう言つても、「もう二日行ったから」と聞く耳を持つてくれません。しばらくすると、一人のスタッフにだけ心を開くようになりました。そのスタッフは庶務を務めてくれていました。都合が付くときには彼に付き添ってくれ、ずっと彼の発する声にだけ応えて、それ以外は何も言わずにただただ傍に寄り添つてくれていたのです。そして、学修が明日終わるという六日目、A君はなんと三日目の登校をしてくれました。誰もが諦めていたのですが、付き添つていたスタッフの「学校行こうか」、その声に応えてくれたのです。長年男子寮で務めておられた当時の寮長先生がその様子を見て「これまでの世話をりとは違うなあ。これも時代やなあ」と、つ

ぶやかれたのが心に残りました。

この出来事から数年が経ちますが、明らかにそのような学生は増えている気がいたします。天理大学でも昼食を食堂で摂れずトイレに入つて食事を摂る学生が現れ、友達とコミュニケーションが上手く取れない学生が増えていると聞きます。学生会に出入りしてくれる学生たちには聞き分けの良い子が大勢います。しかし、それだけに周りの目を気にする。何かあつたら出でこられなくなる。自分から連絡もできなくなります。運営委員会の様子を見ていっても、またそれぞれの学生会の話を伺つていても同じような状況が現れてきます。そのような学生が目立つてきた時代、ただサポートするだけではなく、より積極的な関わりが必要となる場面も増えていくのではない

かと思います。もう、現場ではそのような対応をしておられるところも多いことかと思ひます。今後も、学生たちの様子をしっかりと見ながら、その時に合った向き合い方という話を聞かせていただきましたが、

わゆる内面の世話をりであります。この内面の世話をりに重点を置く方が、より望ましいであろうと私は考えています」

と、非常に分かりやすくお説きくださいました。私たちが会活動を進める時、どうしても行事をどう運営するか、動員をどうしたら図れるかといったことなどに気を取らねがちです。人が沢山寄つたら成功だと思い、学生たちの楽しそうな顔を見ていると、良かったと安心する。そういうものですが、実はそれ以上に行事の中で何か学生の心の成人に繋がる働きかけができたか、ようほくに育つてもらうに相応しい時間を持てたか、このことを考えることが大切だと思います。少しほは逸れますか、学生と接していると、最近は内に籠もつてしまふ学生が増えています。たとえば、学生生徒修養会を人に説明する時、以前なら「ヤンチャな子でも良い面があるんですよ。こちらが親身の世話をりをしたならば、何

か心に感じてもらえます」という話をよくしていたのですが、最近はどちらかといふと「学修に来ても寮から始ど出すに一週間を過ごす子もいます。そのような子であつても、ずっと寄り添うことで、やがて外へても行ける機会の方が多いなっています」

以前二回生の男子寮で務めた時のことあります。二回目の男子寮というのは、昔は男塾と言われるような、男氣で乗り越えたナシボという雰囲気がありました。私は見ての通り真逆のタイプですので、無事に務まるかという不安を持って期間を迎えたのですが、その年スタッフが頭を一番悩めた受講生は、ヤンチャな子ではなく、引きこもりの生徒でした。A君とします。A君は一回生では一週間のうちの一日だけ学校へ行き、残りは寮で過ごしました。そんなA君の二回生での目標は、二日だけ登校することでした。「去年は一日行けたんだから、今日は二日行こうねとお母さんが言つた。今回は一日行こうねとお母さんが言つた。

か心に感じてもらえます」という話をよくしていました。二回目の男子寮というのは、昔は男塾と言われるような、男氣で乗り越えたナシボという雰囲気がありました。私は見ての通り真逆のタイプですので、無事に務まるかという不安を持って期間を迎えたのですが、その年スタッフが頭を一番悩めた受講生は、ヤンチャな子ではなく、引きこもりの生徒でした。A君とします。A君は一回生では一週間のうちの一日だけ学校へ行き、残りは寮で過ごしました。そんなA君の二回生での目標は、二日だけ登校することでした。「去年は一日行けたんだから、今日は二日行こうねとお母さんが言つた。今回は一日行こうねとお母さんが言つた。

方を学び、引き出しを作つて内面の世話をりをさせていただきたいと思います。また、お世話をりする中で、私たちの心がそのまま伝わるのだという自覚もしていかなくてはなりません。青年会長様が「胸から胸へ陽気ぐらしを伝えて行こう」と、先頭に立つて導いてくださっていますので、是非、後に続かせていただきたいと思います。この夏の学修でのこと、青年会長様が受講生と一緒に二回生行事である先人の道を歩いて下さいました。暑い中の行事であり、喉もカラカラになりますので、途中給水地点を設けております。青年会長様はそこで水をお飲みになり、一言「うまい！水の味がする」。同行させていただいた私はその時「うわっ、ぬるい」。思わず私の本音が出てしましました。日々の通り方にについて学ばせていただいた出来事であります。胸から胸へ何を伝えるか。その伝える者の普段の心が出てします。先ほども日々の通り方という話を聞かせていただきましたが、

くれます。まず「親里で学ぼう」。この呼びかけを担当委員会として受け止め、しっかり勧めていきましょう。しかし、それでも通うことができなかつた方には学修を勧めて、おぢばで過ごす喜びを少しでも味わせてあげたいと思います。別席のお誓いのお取り次ぎをさせていただくと、「十七歳になつたから」と初席に帰つてくる高校生としばしば出会います。その子たちに「学修行つた?」と聞くと、相当な確率で「知りません」と答えます。「行つていません」ではなく「知りません」という答えが返ってくるのです。学修もだいぶ浸透してきた

陽気ぐらしの和をその行事の中に醸し出ししていくことは、学生が身近に「心の安まる場」を見つけてくれることに繋がります。そんな身近な行事として教区、直属の行事が進められたら良いなと思います。

有り難いことに、教會長子弟育成プロジェクトなり、後継者講習会なり、教内全体で育成する気運が高まっています。また、婦人会や青年会と相談しながら進めようと いう雰囲気もできようとしています。これらの流れに乗つて、これまでの学生会、担当委員会の行事を、広く若年層の丹精の場としてお使いいただけるよう取り組んでま

いくことが役目だと思います。「春の学生おぢばがえり」、学生生徒修養会、教区・直属の諸行事に、これまで声を掛け続けてきました。学生たちへ、引き続き声を掛け続けていきましょう。そして、出会う学生たちに、日々の喜びを自らが通る中に伝えさせていただること。次代を担うようほくの育成に携わる者の先頭を歩む心意気で、お互い精一杯に務めさせていただきたいと思います。

どうか共々にお通りいただくことをお願い申し上げまして、本日の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

まずは自分がしっかりと教祖のひながたを辿らせていただく。そして、通る中に日々ご恩を感じられる心をつくっていくことがあります。

そして、ご恩を感じて通る中にその心を学生たちに映していく努力をしていきましょうさて、人材育成の旬と言われております先ほどもお話をございましたが、おちばからは「親里で学ぼう」という声を掛けさせていただいてます。おちばで学ぶ第一義は「おちば」で暮らすこと。直接、をやの息をかけていただくことがあります。多感な時期であるうちの数年間を親里で過ごすことで、おちばは「行くところ」ではなく、「帰るところ」であり、「ふるさと」であることをお、心に刻んでもらう。加えて、将来にわたって信仰を語り合える地域や系統を越えた教友ができる。ここに親里の学校へ通う意義があると聞かせていただきます。更には親元を離れて暮らすことで、「親では仕込めないことを仕込んで貰う場」にもなるわけあります。振り返つてみると、どれもが私自身、親里の学校で過ごした中から得ることのできた貴重な宝物でございます。このことは私が語るまでもなく、多くの先

生方が感じておられるところであろうかと存じます。お金では買えない沢山の経験をこの期間にできるわけです。しかし、実際には教会长子弟が管内の学校へ進学する割合は少ないようあります。様々な事情から通うことの叶わぬ場合もあるとは思うのですが、立場の上から学修参加者ということも含めて調べてみたところ、管内の学校へ通う高校生と学修に参加した高校生を足しても、教会长子弟の数の半分にも満たないことが分かりました。ということは、半分近くの教会长子弟は、をやの息をじっくりと掛けていただくことなく、大人になつていくわけです。おぢばで過ごし、おぢばに心を繋げるということは、生きた信仰を直に感じることができるということです。

親神様のご守護がご恩であるということを一番伝えられる場所だと思うのであります。教会で育つた学生の半分が、この体験をできなまま成長している。どうにかして、

いくことが役目だと思います。「春の学生おぢばがえり」、学生生徒修養会、教区・直属の諸行事に、これまで声を掛け続けてきました。学生たちへ、引き続き声を掛け続けていきましょう。そして、出会う学生たちに、日々の喜びを自らが通る中に伝えさせていただること。次代を担うようほくの育成に携わる者の先頭を歩む心意気で、お互い精一杯に務めさせていただきたいと思います。

どうか共々にお通りいただくことをお願い申し上げまして、本日の挨拶とさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。

人材育成部	永尾 信幸	(本部)	田中 茂	(郡山)
北中 成和	葛西 隆太郎	(郡山)	森田 白	(日光)
吉村 翔	梅本 俊一	(山名)	増田 誠一郎	(錦江)
板倉 真	西海 理生	(敷島)		
北野 雄始	(高安)	(河原町)		
窪田 廉久	(甲賀)			
高丸 幹和	(中和)			
大家 優太郎	(櫻井)			
村松 優太郎	(櫻井)			
伊東 善成	(筑紫)			
藤原 (朝倉)	(島ヶ原)			
井餘田 儀大	(牛込)			

石倉 寺本 赤松 拓大
堀田 門田 小林 根生 萩原 須藤 木下 鹿尾 森田 平野 今井 青木 北嶋 三浦 笠木 妹尾 陽介 将典
門田 小林 根生 萩原 須藤 木下 鹿尾 森田 平野 今井 青木 北嶋 三浦 笠木 妹尾 陽介 将典
堀田 門田 小林 根生 萩原 須藤 木下 鹿尾 森田 平野 今井 青木 北嶋 三浦 笠木 妹尾 陽介 将典
大馬 結城 愛喜子 紗喜子 綾香 理香 佐知栄 佐知栄 百喜 美香 愛理恵 優美 大心 良輔 啓一郎 正直 士郎 智昭 陽介
大馬 結城 愛喜子 紗喜子 綾香 理香 佐知栄 佐知栄 百喜 美香 愛理恵 優美 大心 良輔 啓一郎 正直 士郎 智昭 陽介
堀田 門田 小林 根生 萩原 須藤 木下 鹿尾 森田 平野 今井 青木 北嶋 三浦 笠木 妹尾 陽介 将典
門田 小林 根生 萩原 須藤 木下 鹿尾 森田 平野 今井 青木 北嶋 三浦 笠木 妹尾 陽介 将典
堀田 門田 小林 根生 萩原 須藤 木下 鹿尾 森田 平野 今井 青木 北嶋 三浦 笠木 妹尾 陽介 将典
（筑紫）（名京）（北）（高知）（高安）（日本橋）（河原町）（山名）（兵神）（郡山）（郡山）（幅下）（本理世）
（筑紫）（名京）（北）（高知）（高安）（日本橋）（河原町）（山名）（兵神）（郡山）（郡山）（幅下）（本理世）

鈴木	平野	西	鴻野	鈴木
成子	川口	尾崎	鶴岡	ひろみ
望	久松	久松	岩崎	(名東)
三千美	美菜代	美菜代	智子	(東本)
	(牛込)	(牛込)	(浅草)	(御津)
	(東愛)	(東愛)	(阿羽)	(高安)
	(愛知)	(愛豫)	(山陰)	(本愛)
	(愛知)	(愛豫)	(此花)	(立教)
	(愛豫)	(愛豫)	(本愛)	百七十九年十
	(愛豫)	(愛豫)	(東中央)	
	(愛豫)	(愛豫)	(雨龍)	
	(愛豫)	(愛豫)	(大垣)	
	(愛豫)	(愛豫)	(生駒)	
	(愛豫)	(愛豫)	(玉島)	
	(愛豫)	(愛豫)	(龜岡)	
	(愛豫)	(愛豫)	(水篠刈)	
秀伸	好恵	ゆきえ		
徳				
上杉				
山下				
鈴岡				
広報室				

第十四期学生担当委員会の発足に伴い、去る十一月二十五日、中田善亮表統領より第十四期学生担当委員会部員の任命をいたしました。

学生生徒修養会をはじめ、学生担当委員会の受け持つ諸行事のスタッフを務め、あわせて各部での活動を進めていく上にスタッフとして務めていただきます。

また、十一月例会では、松村委員長より本部スタッフの任命を行い、それぞれ庶務会計部、出版部、学生生徒修養会部、人材育成部、広報室の各担当部署に配属されました。

高橋	篠森	古川	石橋	大西	石橋
慶則	夢子	照樹	睦也	信敬	睦也
慶則	（岡）	（郡山）	（北）	（高安）	（高安）
坂本	篠森	森田	森田	奥村	奥村
永薦	（本部）	道明	道明	元	元
吉村	（本保）	加藤	加藤	（岡）	（岡）
上田	（秋津）	義之	義之	（立野堀）	（立野堀）
岩井	（東）	高橋	高橋	（東）	（東）
辰徳	（櫻井）	公嗣	公嗣	（本部）	（本部）
大三郎	（本部）				
明人					
（仙臺）					
（府内）					
（西海）					
（防府）					

学生担当委員会 部員・本部スタッフ委嘱

十一月二十七日から二十九日の三日間、本部第七・八・九母屋を会場に「育成に役立つ研修会」を開催しました。昨年までは「HARP研修会」として開催していましたが、人材育成の現場において現状に即した幅広いニーズに応じることができるように、HARP体験コース、サポートコース、プログラミングコースの三つにコース内容が改められました。これらのコースに加えて、来春開催の「学生生徒修養会大学の部」「学生生徒修養会高校卒業生コース」で初めて係員を務める者を対象とした「学修係員コース」、第十四期学生担当委員会の新任スタッフを対象とする「新任者コース」を含む全五コースに、教区・直属・海外から二百一名が受講し、学生層育成プログラムについて理解を深めました。

各コースともエクササイズの実習や説明に加えて、HARPや学生層育成についての講義が行われ、学生担当者としての姿勢を改めて学ぶ、充実した研修会となりました。

■サポートコース内容
各種育成行事の企画、立案、プログラム作成、運営について学び、行事開催の意識を高めることをねらいとし、エクササイズの体験、プログラム構成の模擬実践及び解説、講義を行い、実践的な研修となりました。

■プログラミングコースの感想
プログラミングにおける「ねらい」と「テーマ」の大切さを学べました。組み上げたプログラムを実現につなげ、実践して学生たちの可能性を広げていきたいと思いました。教区や直属で育成に携わる世代の多くの方に受講してもらいたいと感じました。

■HARP体験コース受講者感想
体験することにより、HARPの重要性とスキルを高める努力の大切さに気付きました。また、トレーナーの姿を見て、細かい心配りや場の盛り上げ方など、これからやるべきことをたくさん学ばせていただきました。

■サポートコース内容
HARP体験コース内容
学生層育成行事で扱っているHARPの有効性を体験すると共に、その心得を学ぶことをねらいとし、エクササイズの体験、HARPについての講義を行いました。

立教百七十九年 育成に役立つ研修会 開催報告

【コース説明&コース受講者感想】

■サポートコース受講者感想
体験するだけでなく、一つのコマ毎に丁寧な解説があり、注意すべきポイントも押さえられました。学生会行事に限らず、様々な場面で活用できると思いました。すぐに使える技術やエクササイズが知りたくて参加しましたが、その前に、それをする意図や流れ一つひとつに思って持つてつとめるのが重要だということを学びました。

立教180年 学生担当委員会 行事計画

月	学生担当委員会行事
1	おせち学生ひのきしん隊 直前研修会(4) おせち学生ひのきしん隊(4~7) 例会(25) 学生生徒修養会 大学の部 スタッフ事前研修会(27~29) 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ事前研修会(27~28)
2	※Happist新規購読推進月間 例会(25)
3	学生生徒修養会 大学の部 スタッフ直前研修会(1~3) 学生生徒修養会 大学の部(3~9) 学生生徒修養会 高校卒業生コース スタッフ直前研修会(9~10) 学生生徒修養会 高校卒業生コース(10~12) 例会(25) 春の学生おぢばがえり(28)
4	例会(25) まなびば研修会(26~27)
5	直属担当者懇談会(25) 例会(25) 学生生徒修養会 高校の部 準備会議(26)
6	例会(25) 学生生徒修養会 高校の部 スタッフ事前研修会
7	例会(25) こどもおぢばがえり学生ひのきしん隊(25~8/5)
8	学生生徒修養会 高校の部 スタッフ直前研修会(7~9) 学生生徒修養会 高校の部(9~15) 例会(25)
9	道の学生ひのきしんDAY 教区担当者懇談会(25) 例会(25)
10	例会(25)
11	学生担当者大会(25) 例会(25) 育成に役立つ研修会(27~29)
12	例会(25)

立教180年 学生生徒修養会 大学の部

募集要項

- ▽ 期間 …… 平成29年3月3日(金)～3月9日(木)
- ▽ 受講資格 …… ①平成29年1月8日現在、大学・短期大学・大学院・専門学校
高等専門学校(4年生以上)に在学している者。
②全期間を通して受講できる者。
- ▽ 募集人員 …… 700名(男子350名、女子350名)
- ▽ 内容 …… 講義、グループワーク、にをいがけ、ひのきしん、修練(おつとめ勉強)など。
期間中に別席を1席運べる日を設けます。
- ▽ 集合 …… 3月3日 正午～12時30分に指定された宿舎に集合してください。
- ▽ 解散 …… 3月9日 午前10時頃、各宿舎にて
- ▽ 受講料 …… 8,000円 詰所(直属学生担当委員会)に納めてください。

申し込み方法

- ▽ 申込方法 …… 下記の書類をととのえ、最上級教長の署名・捺印をいただいた後、
学生担当委員会事務局に申し込んでください。
 - ・受講願書1通 ※特に学年の記入間違いのないようお願いいたします。
 - ・返信用封筒1枚(住所、氏名、郵便番号を記入し、82円切手を貼付してください)
- ▽ 受付期間 …… 平成29年1月8日～2月25日
(事務処理の関係上、願書はなるべく2月15日までに提出してください)
- ※ 受講にあたっての詳細及び必要事項は、書面にて2月15日以降、随時本人に郵送いたします。
また、2月15日以降はTSA websiteでも詳細、必要事項が確認できますのでご利用ください。
- ※ 受講願書は学生担当委員会事務局、直属学生担当委員会、各教務支庁にあります。

「まなびば」開催会場一覧 《1月開催分》

教区	開催日時	場所	担当者	電話番号
島根	1月21日12時～22日14時	教務支庁	足立	
京都	2月4日13時～5日15時	宮津分教会	中島	

☆実施計画書は2カ月前までにご提出ください。

『Happist』を人材育成の一助に! 2月号は特別号です!!

学生担当委員会では、『Happist』2月号を特別号(新規購読推進号)として、教長・布教所長および住み込み人子弟の中学校3年生に、無料で配布致します。内容は、通常の特集や連載コーナーに加え、学生対象の諸行事を紹介したカラーグラビア「TSA PERFECT GUIDE」を掲載します。新高校生への丹精の一助として、この特別号をご活用いただきますようお願い申し上げます。

『Happist』2月号 予告

[特集] ココロの大研究

連載

- ・教理コーナー
明日を展くをやの言葉 佐藤 浩司 (天理大学名誉教授)
- ・信仰エッセイ
明日の地図ひろげて 伊藤 教江 (幅下大教長夫人)
- ・東馬場先生と学ぼう!
Happistニュース 東馬場 郁生 (天理大学教授)
- ・人生を彩る1冊をあなたに。
虹色のしおり 杉岡 千幸 (天理教校学園高等学校教諭)

センターカラー
年間行事紹介
**TSA
PERFECT
GUIDE**

明日につながる学生マガジン
HappistZ

個人宅に直接『Happist』が届く個人購読も行っております。詳細は学生担当委員会事務局までお問い合わせください。

※内容は一部変更になる場合があります。

我が子が言葉を話せるようになって一年が過ぎた。語彙も増え、成長しているなと思う。大人のように自ら勉強するのではないか、又親があれこれ教えてくれるのでない、しかし驚くほど大人びた発言をする。言葉を覚えるのは、人間が元来持つて生まれたものなのだろうかと感心するが、一方、保育園に通っていることや、周りの人の会話を聞くなどの環境が影響しているのかなとも思う。学生会の行事に参加していた学生がお道につながっている姿を見ると、環境の一つとして教区学生会も少しは貢献しているのかなと喜ばしく思つたりもする。次回に向かって歩みだした十年の間には、多くの学生が行事に参加してくれる。その時、学生会で活躍した学生たちが担当委員会で活躍する姿を夢見て、スタッフの育成も必要と感じつつ、只今は我が家で未来の学生会員の成長に一喜一憂している毎日である。

鳥取教区学生担当委員会前委員長
谷山真治

青空